

# 化石館だより



## コラム

### フズリナの産状から

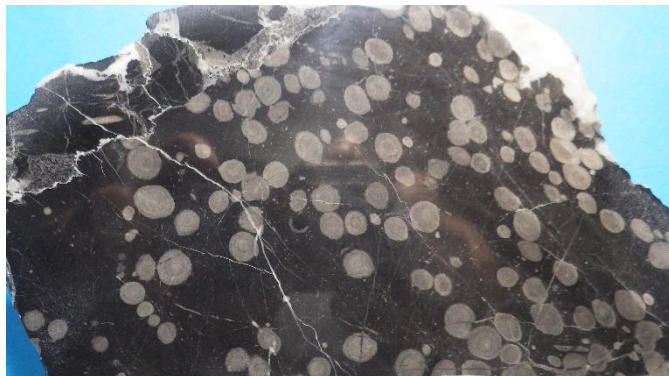
金生山化石館には様々なフズリナ化石が展示してあります。フズリナにたくさんの種類があることをご存じない方も多いのですが、フズリナには丸い形のものやフットボールに似た形のもの、また1センチ以上あるものからわずか1ミリ程度のものでとても多くの種類があります。フズリナは地味な化石なので見過ごされやすいのですが、フズリナ化石は堆積した時代を特定することのできる示準化石として重要であり、金生山でも多くの研究がなされてきました。日本の化石で最初に学名がつけられたのはパラフズリナ・ジャポニカですが、これは金生山の石灰岩から発見されたのです。ですから金生山は化石の研究（古生物学）の歴史において重要な場所でもあるのです。

フズリナは、石灰岩の中に丸い点が散在するような形で見つかります。石灰岩にフズリナがどのようにして入っているのかを観察することは、フズリナがどのような環境で生活し、化石になっていったのかを解き明かしていく重要な手掛かりになります。岩石の中に化石がどのように存在するのかを「化石の産状」といいますが、化石の研究において産状の観察と記録はとても重要なことなのです。



上の写真はパラフズリナが密集している状態です。大きさが揃っており他の化石が殆ど含まれていませんね。どうしてこのように密集して化石になったのでしょうか。この場所にパラフズリナが非常に多く生息していたからなのでしょう。？

たくさんいたことは事実でしょう。しかしそれだけではなさそうです。密集しているということは、水流によってこの場所に寄せ集められたことが推察されます。大きさが揃っていることは水流によって分級が進んだことを示していると考えても良さそうです。このフズリナは水流によってこの場所に流されてきたのでしょうか。その過程で小さなものは流し去られ、比較的大きさの揃った集団となって堆積したと考えられます。



一方、下の写真はヤベイナというフズリナですが、大きいものや小さなものが混じっていますね。

個体数も少なくパラパラと散らばった状態で入っています。ヤベイナを取り巻く黒い部分は細かい泥質の石灰岩です。大小の個体が同時に存在するということや密集していないことから、このヤベイナは水流で寄せ集められたものではないことが想像できます。おそらく生活していた場所で堆積したのでしょう。化石を取り巻く部分が泥質の石灰岩であることから、そこは水流が弱く泥が堆積するような場所であったことが推察されます。



この泥質部分にミッチアという石灰藻の化石が密集している場合も多く見られます。左の写真では、白や黒の大きな丸い粒がヤベイナで、小さな白い粒がミッチアです。ヤベイナはミッチアなどの藻類が密生している場所でともに生活していたようです。

(文責：高木洋一)

\*\*\*\*\*

## お知らせ

### 前期企画展 「ウミユリの不思議」 開催中

**開催日** 5月3日より9月2日まで  
**場所** 金生山化石館 2階展示室にて  
**料金** 入館料のみ(大人:100円 18歳以下無料)  
**休館日** 火曜日(祝日の翌日)



### 前期自然講座のご案内

7月7日(日) 方解石の不思議を調べよう  
 7月14日(日) 顕微鏡で微化石をさがそう  
 7月21日(日) 化石を採集して観察しよう

入館料:	100円
参加料:	200円
対象:	4年生以上
定員:	10名~20名

問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)  
 Email kasekikan@city.ogaki.lg.jp